

令和8年度花の里づくりボランティア作業が行われました

これから見頃となる花の里ハナビシソウ園にて、地域の方やボランティア団体によって園内の除草作業が行われました。オレンジ色の美しい輝きのあるハナビシソウは、例年6月中旬頃まで見頃です。その後、アジサイの一種で大きく大きな花房が特徴のアナベルを園内にて楽しむことができます。花の里づくり実行員会では、一緒にボランティア活動をしていただける方を募集中です。ご興味のある方は下記までお問い合わせください。

問合せ 長瀬町花の里づくり実行委員会事務局
(長瀬町役場産業観光課内)
☎66・3111 内線233



「唐沢の獅子舞の獅子頭」が町指定文化財に指定されました！

令和8年3月18日(水)に「唐沢の獅子舞の獅子頭」が、新しく町指定有形民俗文化財に指定されました。
唐沢獅子舞の獅子頭【内訳：享保の獅子頭 3頭、文政の獅子頭 3頭】

■概要

昭和45年9月1日に町指定無形文化財に指定された「唐沢獅子舞」は、享保11年(1726年)丹生明神社(現在の武野上神社、大字本野上地内)造営の折、越後から来た宮大工が3頭の獅子頭を製作し、舞を伝授したのが始まりと伝えられています。以降、唐沢耕地(現中野上区唐沢)の住民は父子相伝で獅子舞を継承してきましたが、関係者の高齢化や後継者不在により舞の奉奏ができなくなり、再開は困難として令和5年3月22日付けで指定解除になりました。

その後、獅子頭をはじめとする道具は、町において保管され調査した結果、「享保の獅子頭」の内側に享保11年(1726年)等という墨書があり、「文政の獅子頭」の内側に文政13年(1830年)等という墨書が確認でき、2組の獅子頭が製作された年代等が明らかになりました。

唐沢獅子舞の獅子頭は、こうした歴史資料的価値や、町内唯一の獅子舞であった唐沢獅子舞で使用されていたという背景から、当町の歴史や民俗等を考える上で重要な資料になっています。



【享保の獅子頭】



【文政の獅子頭】

問合せ 教育委員会 生涯学習担当(中央公民館内) ☎66・1800